

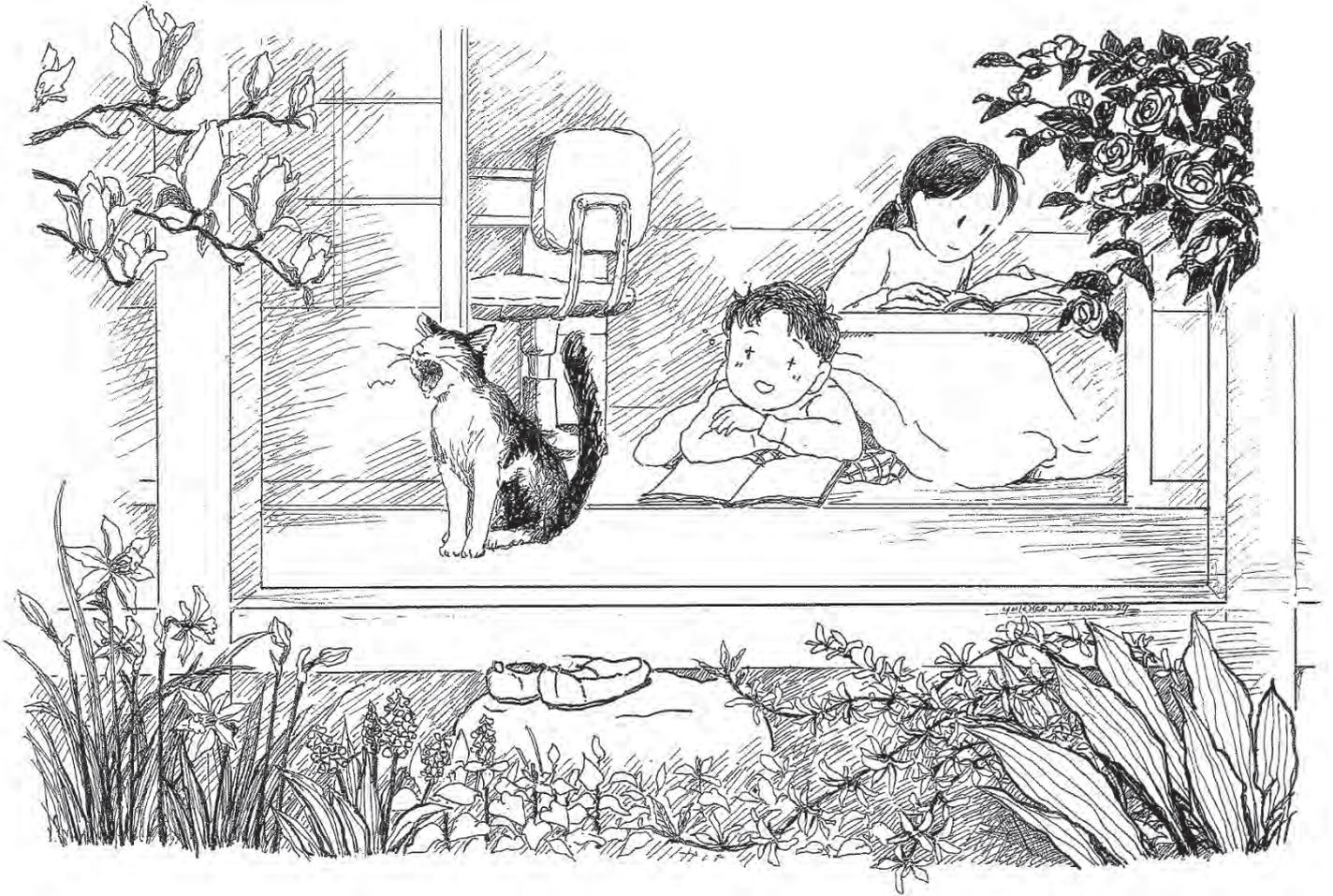
ひかりのこ

光の子



No.217 2025.3.30

●年間聖句 すべてを吟味し良いものを大切にしてください (テサロニケ信徒への手紙I.5章21節)



「春うらら」

表紙絵・中島 由起子

光はわれら

落合 水尾

(「浮野」主宰)

もう少し歩けば角の春がある

校長の奥さん元気山笑ふ

遠ひばり絵本かいたり歌ったり

笑顔より始まる会話桜草

先生の好きなげんげをみんなと摘む

大利根の光はわれら山笑ふ

反省より希望の笑顔青き踏む

20 幾年を経て辿り着く関係

光の子どもの家 副施設長 小西 剛史

光の子どもの家は開設から間もなく40年を迎えます。人の年齢で言うとも40歳ということになります。光の子どもの家はこの歳にしてようやく自立に向けて歩み始めたのではないかなと、最近ふと思います。

開設当初の1985年、その当時からここを支え続けてきた6人の先人たちは、私にとっては越えられない先駆者でした。先輩であり、時に親兄弟であり、仲間でありました。そして被等は先人であるが故に当然、私より常に先を行きます。退職を経て1人減り2人減り、そして昨年度末には養育に深く関わり続けてきた光の子どもの家の根幹とも言える2人が定年退職を迎えました。私にとってその2人は20年以上に渡り、時には怒られ、余計なお世話だと思え、数え切れないくらい許され、そして最後の最後まで何

かあれば守ってくれるような、そんな存在でありました。その2人が光の子どもの家を去ることは、今まで寄りかかっていた支えをポンと外されたような感覚でした。

『今後の光の子どもの家に何か困ったことがあれば、きつとまた助けてくれるに違いない……』そんな余韻を少しだけ残しつつ、拍子抜けするほど後腐れ無く2人はスツと去って行きました。

先人らが残したそんな余韻は、私にとって舵取りを誤らないための唯一の後盾となっており、今もなお残る数少ない先駆者や心強い若き仲間たちと共に、新たな時を刻みながら成熟した光の子どもの家の自立を築いていきたいと願う日々です。

追記

かつて晩酌のお供をしていた当時の施設長から言われたこと……。『小西君、この仕事で最もやりがいを感じる瞬間

間はね、ここで育った子どもが大人になって一緒に酒を飲む時なんだ。君もそうできるよに長く続けて欲しい』

私が入職した当時（2002年）、小学5年生の太郎という少年と出会いました。彼とはサッカーなどして仲良く過ごした時期もあったのですが、中学生になる頃、まだ若かりし私と反抗期真っ盛りの彼との関係は悪くなる一方でした。私は試行錯誤をしながら何とか関わろうとしますが、当然心を割って話せるような関係にはなりません。高校時代などは数ヶ月に渡って会話はなく、「おはよう」「おかえり」など最低限の声かけも完全無視状態でした。そんな彼は卒園後も私との関係を拒否し続けていたのか、施設自体にも顔を出すことはありませんでした。

そして数年が経ったある日、太郎の一つ年下の弟である次郎（享年30）がやってきて私にこう言いました。「太郎は施設にいる時ずっと小西さんのこと避けていたけど、この前こう言っていたよ、『今は感謝している、でも会おう



原田家の庭、伐採した木の根っこを掘り出した

とは思わない。自分が立派になつたら一緒に酒を飲もうと思ってる』ってね。私はその日が来るまで黙って待とうと決めました。

その後数年が経ち、残された唯一の家族であったその弟が先立ち、『自分だけが幸せになつていいのだろうか』と思いついた末に彼は結婚を決めました。

そして先日、そのお祝いの宴への招待が私にありました。小さな酒場を貸し切った沢山の招待客と共に祝う席、30歳を越え表情も柔らかくなつた彼と初めて杯を交わしました。「太郎、お前の弟が生前にこう言っていたぞ……」と前述の話を、「そんなこと



毎年恒例お餅つき

言ったかなー!?」という彼にこう付け加えました。「あいつはいつも俺と太郎の仲を取り持つような事ばかり言っていた。決して関係が悪くなるような事は言わないんだ。太郎が本当にそう言ってくれていたならもちろん嬉しいが、もし嘘だったとしても兄を思うあいつの気づかいを知るところはもっと嬉しいよ」。すると太郎は「そういう話ばかり聞くんだ、あいつが死んでから……、生きている時に聞いていれば……」と涙を流すのでした。

この日、私と太郎との長年に渡るわだかまりは、互いの涙と共に流れ去っていきま

わが友よ大空に羽ばたけ

老健施設紅寿の里 施設長 仙道 富士郎

親友が昨年暮れに亡くなった。北大医学部入学以来付き合い合ってきた男だった。彼の死を教え子の賀状で知って以来、力が抜けてしまった感じ

時、関わっていた人間たちは多様な方向に向かつてそれぞれ歩き始めたが、その当時彼とどんな話をしていたのか思い出せない。思い出したくないことが沢山あり、それを忘れさせる脳の働きによる健忘

に涙ぐんでいたりしている。思い起こすと、20歳の時に学生運動の中で出会い、今86歳に至るまで、その都度付き合いの温度差はあれ、いつも近くに居続けたことになる。そのころ生徒会活動の盛んだった札幌の高校を卒業してきた彼を含む一群の学生たちは、言うことが大人びて

た。私とは言えば、大学浪人中に街中で手渡された新約聖書を読んで感激し、自分ではクリスチャンになった気分であったのだが、安保闘争の渦の中で、いつの間にか学生運動に関わるようになっていた。運動の中では彼が一步先を進んでいたのを記憶している。安保闘争が終焉を迎えた

は、言うことが大人びていた。私はと言えば、大学浪人中に街中で手渡された新約聖書を読んで感激し、自分ではクリスチャンになった気分であったのだが、安保闘争の渦の中で、いつの間にか学生運動に関わるようになっていた。運動の中では彼が一步先を進んでいたのを記憶している。安保闘争が終焉を迎えた

医師免許証を取得して、私は北大の基礎医学の大学院に入学した。彼は東大の臨床学教室に入局し、出会う機会も減ったが、彼の影響は受け続けていたように思う。というのも、私は、大学院を卒業して取得する医学博士をポイコットしたからである。彼は、ポイコット運動の中心的なメンバーだったように思う。しかし、この話には後日談があ

って、2人は後に博士号を取得した。私の場合は、教授選考の際に学位無しでは不利だという事情だったが、彼にもこの世を渡っていく上での諸々の話があつたのだろう。想いは巡りにめぐる。昨年、「光の子に書き続けてきた原稿を整理して、「えふりこぎ」というタイトルのエッセイ集を出版し、彼にも1冊贈呈した。彼は電話で礼を言い、「正直に書いているから良い」と講評してくれた。そして、「本を送ったから。代金は払ってある。」との事だった。到着して荷をほどいてみると、「レーニンよさらば!」新たな社会主義の創成を」というタイトルが記された一医師の書いた分厚い本だった。私とて、世の中のことを全く意に介さなくなったわけではないが、こんな硬質な本を彼が(多分)愛読し、私に送ってきた事に驚いた。昔のことを思い出す感じで読み始めたが、1936年生まれの88歳ぐらいの医師が書いたものにしては、直截で、初々しささえ感じさせる内容であった。少し読んで、読みさし

たままになつていた。

そこに彼の死である。途中で読むことを中断してしまつていたことを、とても申し訳ない気持ちになり、懸命に読み続けた。そこに繰り返し書かれていたことは、社会運動における暴力の否定であった。マルクスと同じように神格化されてきたレーニンに対する厳しい批判とレーニンも主張してきた暴力革命の否定もある。「新しい社会主義の創成」についての提案が連綿と語り続けられていた。暴力を否定した新しい社会主義の創成について、親友も連綿と考へ続けてきたのだろう。今は亡き友を誇らしく思った。そして、何年あるかは定かでないが、残された生を雄々しく生き切らなければと自らを諭した。

わが友よ大空に羽ばたけ。

【休載のお知らせ】

近藤みちる 「共育ちカンガルー日記」は休載です。

独りぼっち

彫刻家 中島 睦雄

以前Tさんに迷作短歌というものをお見せしたことがある。Tさんとはしよつちゆう行き来しているの、特に改まることはない。「迷作である」

電話なく 訪う人も ない
時は 独り淋しく 珈琲を飲む

実際こんな時があるのである。

誰も来ない、電話もない、独りぼっちの淋しい時はどうしようもない。

そんな時には、CDをかけ、珈琲豆をガリガリと挽き、淹れた珈琲を静かに飲んだりしている。

或る時、Tさんから電話があった。

「今、独りで淋しく珈琲を飲んでるんですか？」と。

Tさんは古くからの友人で、家も近くなので今でも頻繁に交流している。

私は答えた。「いや、今は絶世の美女と2人で楽しく珈琲を飲んでるんですよ」と。

しかし、Tさんにはこれがデタラメだとすぐに分かってしまう。

そこで私は、Tさんに「私が迎えに行きますから。支度しててくださいね。そして2人で楽しく珈琲を飲みましょう」と。

Tさんは歩くのが少し不自由なお体なので、車でご自宅まで迎えに行き、そのまま一緒に出掛け、食事をしたり、私の家に招いたり。勿論奥様にもご了承を頂いたりもして。

Tさんが来てくださると、雑談をしたり、CDでお互いの知っている音楽を流したりと、とても楽しい時間が過ごせる。

冗談も言い合える仲なので「うちの珈琲は1杯3万円ですから」



「ラテアート」ならぬ
「チーズデザートアート」

園内保育から

「玄師ちゃんとの遊び」

佐保 浩代

去年の春に4歳の玄師ちゃんが光の子どもの家にやって来た。

もちもちのほっぺにまん丸お目々、まるでマシュマロのような可愛い男の子。

厨房で作ったおかずを運んでいる私に「おじさん！」と話しかけてくる。

「おじさんは男の人、おばちゃんには女の」と教えても、毎回「おじさん」と呼んでくる。

化粧つきの顔をしているのでそう呼ばれてもしょうがないと思う。そんなもんだから、たまに自分から「おじさん」と言ってしまう時もある。

ある日、食堂の入り口に玄師ちゃんが座っていて、通りがかった私を「おい！」と呼び止めたので私も「おい」と返した。イタズラ顔した玄師ちゃん。とにかく「おい」と言いたいのだろう。玄師ちゃんに合わせてまた「おい」と返した。まだ言いたがっている様子だったので今度は私から「おい」と言ってみる。それに合わせて「おい」と返してくる。2人とも楽しくなってきて、笑い合いながら「おい」「おい」「おい」と何度も呼び合う。そんなこと

で関係を少し築けたよう、それからたまに「おばさん」と言ってくれるようにもなった。

日が経って、玄師ちゃんは5歳になった。来た頃のまん丸とした体は、今では少し引き締まって身長も少し伸び、ちよつとお兄さんになり、私の事を「おばちゃん」「佐保さん」などとも言ってくれるようになった。

だが、とある日、庭で乗り物遊びをしながら向かって来る玄師ちゃんが元氣よく大きな声でこう言った。

「おじさーんっ！車通りまーす！！」

もうどっちでもいいよ。元氣なら。

仙道家から

「新しい環境へ」

大鹿 媛歌

出会いと別れの季節が近づいて来ました。4月からひろみは小学生へ。あかりは中学生となります。

ひろみは3学期に入ってから、朝は小学生と一緒に起きて朝食を食べる練習を始め

幼稚園児、迎いのバスが来る前に小学校まで歩くの巻。



した。マイペースなひろみ。食べ出しは皆と食べられるものの、気がつくとも小学生は登校して行ってしまう。しかし、毎日毎日繰り返しているうちに小学生に間に合う日が出て来ました。ご馳走様をして、自分で幼稚園の準備をして、「ひろみもう終わっちゃった。何して遊ぼうかなあ」と余裕まで出て来ました。日々の成長には驚かされます。

あかりは制服採寸、説明会、学校見学と中学生になるということを少しずつ実感しています。「勉強したくないなあ。友達できるかなあ。」と不安いっぱい。でも、私は期待の方が多く見えます。

「なんの部活に入ろうかなあ。中学生になったら1人でカラオケに行ってみたい！」やりたいことがたくさんあります。

2人共、卒業までのカウンタダウンが始まりました。「もう少しで卒業だね」と話す。「寂しい！」とひろみ。「はやいねえ」とあかり。2人が卒業まで悔いのないよう、次のステップで不安や期待を抱きながらも自信を持って進んでいけるように環境を整えて支えていきたいと思えます。

原田家から

「家庭復帰」

岩崎 まり子

「そめやっち、だくいきき」「みっ子さん、だいすきだからね！」「もう！ほんきでほんきですきだからね！」

かこさとしさんの絵本の子鬼のような寛太君が今日も笑顔で言っています。こんな口癖なら大歓迎です。

決して穏やかな子ではなく、いたずら好きで、窓の棧に上がってしまったり、他児

漫画「発想の転換」



の物を取り上げて面白がったり、「熱いよ」と注意したそばからオーブントースターに触って顔を引きつらせたり……。悪いことをしようとしている時のとびきりの笑顔。何をやるかわからないので大人の目の届かないところへ居させることはできず、ちよつと事務所へ行くなどという時も抱っこして連れて行ってしまった。

でも、ちよつとこわい顔で叱ると、目に涙をため、一生懸命「はい😊ごめんなさい」と言える素直さと、あの「大好き」の口癖で全て帳消しです。

そんな寛太君は、もうすぐ親御さんに引き取られる予定です。

少し前に始まった夜泣きも

親御さんがしつかり受けとめて関わって下さったようので安心です。

沢山の想いがありますが、これからも寛太君のあの子鬼のような笑顔が消えないよう祈っています。

寄贈について
お知らせとお願い

日頃より様々な形で光の子どもの家にご協力いただき、ありがとうございます。

施設開設当初より「小さくても大バザー」と称し、行政が定める数以上に職員を確保する資金集めの取り組みをしてまいりました。2020年にコロナ禍で開催を中止してからも「いつ再開するの？」

というお問い合わせや「バザーのためにどうぞ」とご寄贈いただくこともありました。

このたび「今後はバザーを開催しない」方針を決めたことを、お知らせいたします。

理由としては、リサイクルショップやフリマアプリが普及し、バザーを開催することで見込める利益が、コストに見合わなくなったことが一つ。それから、施設改修工事で寄贈物品を保管する場所が確保できなくなったこと。保管しきれなくなったものを処分するコストがかかっていることがあります。

そのため、今後「食器類、家電、家具、布製品、ぬいぐるみ、大きな玩具」の寄贈は、原則として承りません。



雪とひな人形



環境整備委員会製作の
遊具収納棚（仙道家玄関前）

他方「チャイルドシート」、「食卓用幼児イス」、「タブレット端末」など、子どもの暮らしをより安全、豊かにするために数を増やしたいものがございます。それらについては特に寄贈をいただければ幸いに思います。

その時々で必要性の高い物については、ホームページ上でリストアップしてまいります。それ以外のご寄贈については、誠に勝手ながら、事前にご連絡をいただいたうえで、承るか都度判断させていただきます。と存じます。

今後も光の子どもの家にお心を寄せていただけますようお願いいたします。

外出と食事場面から 「ラーメン部」

佐藤 義岳

光の子どもの家には、かつて「登山部」があつたらしい。做つて「ラーメン部」を名乗るが、要はラーメン好きの職員が子どもと一緒にラーメン屋に行つていただけ。

最初に連れて行つたのは仁だった。入職したばかりでいきなり16歳の男の子の誕生日、プレゼントに何を贈ればいいのか分からず、近場のおいしいラーメン屋にでも行こうと誘つた。仁はラーメンを楽しみにしていたが、古河「麵堂稲葉」の行列で空腹に耐えきれず、向かいのコンビニでフライドチキンを買つて食べた。腹が満たされてしまい、ラーメンは半分近く残した。

餃子とご飯を出してもらつた。卒園した今は、少しラーメンにハマりかけており、昆布水つけめんに興味津々だ。ラーメンと言えば莉玖。一緒に食べると食レポをしてくれておもしろい。

一時期「一蘭」にどハマリしていたが、今は冷めてとでも批判的である。

開店したての久喜「中本」で、元から辛いラーメンに唐辛子をかけまくり店員に感嘆された。「食べきれなかったら佐藤さん食べてね」と言つて注文したライスは、着くなりタンメンの具を上に乗せてシェアの道を閉ざした。家系ラーメン店でもおかわり無料ライスを軽く2杯。「食燬もみじ」では角煮丼までしっかり楽しんだ。

齒科通院の直前に二郎系ラーメン店でニンニクチャーヂ。古河「七の庫」では、元から大きいチャーシューが乗っているのを知らずチャーシュー麺を注文し驚いていた。学校では、それまで話したことのない仲良くなり、大学見学はラーメン屋めぐりとセツ

トに。進学後はラーメン部をつくりラーメン本を出版したいと言つていた時期もある。退所した後もときどき一緒にラーメン食べようね、大学の近くにおいしいラーメン屋があるといいね……と話していたのだが、莉玖が入ることになった大学の近くに、今のところめばしい店はない。受験期間中「合格したらあそこに行こうね」と約束した店もあるが、予定が合わず行けない。忙しい新生活、ラーメンのために遠征する時間はとれるだろうか……。

達也もラーメン好きだが、彼の理想のラーメンはカインズキツチンのラーメン。勝手に「中華そばイデタ」に連れて行つたら「うまいけどカインズのがいい」と言われてしまった……。

光の子どもの家で作るラーメンも、以前に比べ味がよくなっていると思う。業務用スープをベースにしながら、香味野菜などで出汁を取っている。ただ、冷凍の中華麺はいまいち。こだわりのある職員は生麺を買い足してくる。幼い子だと、遊びを切り上

げられなくて食事時間に間に合わないとか、食事中も集中しきれず遊んでしまふとかいったこともある。当然麺はのびてしまう。

麺はうまい麺の方がうまいし、のびてしまふ前に食べた方がいい。そう当たり前に思えるようになってほしいと思う。

部活などで遅れて帰つてくる子どもがいるときは、茹でおきの麺にスープをかけるのではなく、自分で麺をゆでさせ、できたてを食べてほしい。先に大人数の麺をゆでて濁り冷めてしまつた湯は捨て、鍋もいったん洗って、きれいなお湯を用意して待っておきたい。

施設の機関誌でいったい何を書いているのだと自分でツッコみつつ、子どもたちとは麺のように、太さはいろいろでも長いつながりをもち続けたい。

……などと書いておけば、南栗橋「麺屋みつば」のしっかり締まって美しく盛り付けられたつけ麺のように、この文章もまとまったことにしてもらえないだろうか。

日誌抄
2024年12月
2025年2月

【3月1日の在籍児童数】

幼稚園 8名 小学生 12名
中学生 8名 高校生 5名
計 33名

【12月】

1日 ご招待でハンドベルコンサートへ 第1アドベント礼拝
2日 職員向け第三者評価結果報告会
8日 第2アドベント礼拝
9日 小学校振替休日のみかも山公園へ
15日 第3アドベント礼拝
22日 第4アドベント礼拝
23日 後援会の方々による園庭掃除



元旦、利根川土手の日の出

【1月】

25日 クリスマス礼拝&祝会
27日 餅つき 卒園生や職員も来訪

1日 元旦礼拝&祝会 夜は卒園生新年会
17日 パントリー
25日 後援会によるがんばろう会 感謝
27日 12月と1月の誕生会
29日 穴水施設長がFMほんじょうに出演。職員募集について語る

【2月】

8日 子供の町主宰の施設交流会でサッカー
10日 九州大学とのワークショップ

【礼拝ご奉仕各位】 東大宮教会 東埼玉バプテスト教会 佐々木優牧師 佐野正子教授

【委員会の主な動き】
建築 増田設計士と共に補修
改修実施
環境整備 クリスマスツリー設置、雛人形設置、各家からの依頼に対応

【実習受入】 東京家政大学2名 純真短期大学2名

【寄贈者各位】 浅倉桂子 新井房子 伊勢亜希子 岩上幸江・新 大塚 大塚東一 大

橋清栄 金子智幸 黒岩 木暮伸二 佐々木ツヤ 佐々木 優 佐東亜耶 佐山恭子 菅原哲男 芹沢美保 仙道喜美子 竹花信恵 ハマザワ 村田裕介 矢島正 山田智・裕子 湯澤真彦

カーブス大根店 カープス古河雷電町店 髪風船 鴨川会 栗橋営繕 (株)ゴルフ・ドウ 埼玉県書店商業組合 サシバの里自然学校 すくすく広場 全ヤオコー労働組合 第一生命労働組合 東洋英和女学院大学小学部バザー委員会 24時間テレビチャリティー委員会 日本鏡餅組合 (財)日本出版クラブ 日本食鳥肉協会 日本郵船(株) (株)なり ネットトヨタ東埼玉 光の子どもの家後援会 藤沼畜産 ほつともつと (財)毎日新聞 東京社会事業団 YOUNeWe (株)fragrancy物流センター Gモプレシヤス(株) (株)ティ・エスロジスティック 他多数の皆様

【ボランティア各位】 〈華道〉岡本有代 〈手芸〉山田智・裕子 〈学習〉常松洋介 関口晃司 〈保育〉坂本美紗子 他多数の皆様

ご寄付について (物品の寄贈は事前にお問い合わせください)

【郵便振替】 00130-1-128022

他銀行から 【銀行名】 ゆうちょ銀行 【金融機関コード】 9900 【店名】 019店
【店番】 019 【預金種目】 当座 【口座番号】 0128022

【発行】 社会福祉法人 光の子どもの家 【住所】 〒349-1155 埼玉県加須市砂原277-3
【電話】 0480-72-3883 【FAX】 0480-72-6649 【メール】 hikarinoko@ceres.ocn.ne.jp
【Webサイト】 http://www.hikarinokodomonoie.com/ 【印刷】 (株)エル・アートデザイン